



CITIZEN

2022年度（2023年3月期）
通期決算説明会

シチズン時計株式会社
2023年5月12日

2022年度通期業績概要

広報IR担当の古川です。

2022年度通期決算につきまして、ご説明いたします。

(単位：億円)	2021年度 通期実績	2022年度 通期実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	2,814	3,013	+199	+7.1%
営業利益	222	237	+14	+6.4%
営業利益率	7.9%	7.9%	-	-
経常利益	273	290	+17	+6.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	221	218	▲ 3	▲ 1.4%
為替レート	¥112/USD ¥130/EUR	¥135/USD ¥141/EUR		

■ 主力の時計事業・工作機械事業を中心に売り上げを伸ばし、増収増益

3

通期の損益計算書の概要です。

売上高は3,013億円、前年比7.1%の増収、
営業利益は237億円、前年比6.4%の増益、営業利益率は7.9%でした。
主力の時計事業と工作機械事業が期を通して好調に推移し、増収増益となりました。

経常利益は290億円、親会社株主に帰属する当期純利益は218億円となりました。

(単位：億円 / %：営業利益率)

売上高	2021年度	2022年度	前年同期比	
	通期実績	通期実績	増減額	増減率
時計事業	1,310	1,500	+189	+14.4%
工作機械事業	810	861	+51	+6.4%
デバイス事業	500	447	▲53	▲10.6%
電子機器他事業	192	204	+11	+6.0%
合計	2,814	3,013	+199	+7.1%
営業利益				
時計事業	103 (7.9%)	166 (11.1%)	+63	+61.4%
工作機械事業	125 (15.5%)	122 (14.2%)	▲3	▲3.1%
デバイス事業	28 (5.7%)	▲8 (▲1.8%)	▲36	-
電子機器他事業	11 (6.1%)	11 (5.6%)	▲0	▲2.4%
消去又は全社	▲46	▲54	▲7	-
合計	222 (7.9%)	237 (7.9%)	+14	+6.4%

- 時計事業：完成品が欧米市場を中心に好調に推移し、増収
- 工作機械事業：部材調達難の影響が継続する中、徐々に生産出荷が進み、増収

4

セグメント別の業績です。

時計事業は、欧米市場を中心に好調な販売が継続し、売上高は1,500億円、前年比14.4%の増収、営業利益は166億円、61.4%の増益、営業利益率11%となりました。

工作機械事業は、部材調達難の影響を受けながらも、下期に入り徐々に改善に向かったことから生産出荷が進み、売上高は861億円、前年比6.4%の増収となりました。

営業利益は122億円、部材コストの上昇などの影響を受け、前年比ではわずかに減益となりました。

デバイス事業は減収減益。電子機器他事業は増収でしたが営業利益は前年並みとなりました。

2022年度第4四半期（1－3月期）業績概要

続いて、第4四半期の業績についてご説明します。

(単位：億円)	2021年度	2022年度	前年同期比	
	4Q(1-3月)実績	4Q(1-3月)実績	増減額	増減率
売上高	658	711	+53	+8.2%
営業利益	26	26	+0	+1.4%
営業利益率	4.0%	3.8%	-	-
経常利益	50	46	▲ 3	▲ 7.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	49	21	▲ 28	▲ 56.8%
為替レート	¥115/USD ¥129/EUR	¥133/USD ¥142/EUR		

売上高は711億円、前年比8.2%増、
 営業利益は26億円、前年比1.4%増、
 営業利益率は3.8%となりました。
 経常利益は46億円、前年比7.4%減、
 四半期純利益は21億円、前年比56.8%減となりました。

2022年度第4四半期（1－3月期） セグメント別業績推移

CITIZEN

(単位：億円 / %：営業利益率)

売上高	2021年度	2022年度	前年同期比	
	4Q(1-3月)実績	4Q(1-3月)実績	増減額	増減率
時計事業	282	326	+44	+15.7%
工作機械事業	209	227	+18	+8.9%
デバイス事業	121	105	▲16	▲13.3%
電子機器他事業	45	52	+6	+15.3%
合計	658	711	+53	+8.2%
営業利益				
時計事業	▲0 (▲0.3%)	8 (2.6%)	+9	-
工作機械事業	31 (15.2%)	37 (16.5%)	+5	+18.2%
デバイス事業	7 (6.2%)	▲6 (▲6.2%)	▲14	-
電子機器他事業	1 (2.5%)	1 (3.2%)	+0	+48.0%
消去又は全社	▲13	▲14	▲1	-
合計	26 (4.0%)	26 (3.8%)	+0	+1.4%

7

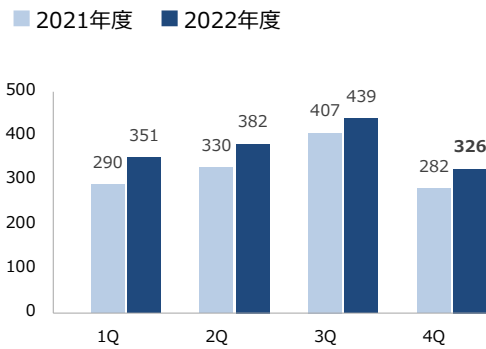
こちらは、セグメント別の第4四半期業績です。
デバイス事業を除き、時計、工作機械、および電子機器他事業は増収増益となりました。

この後、事業別の概況をご説明します。

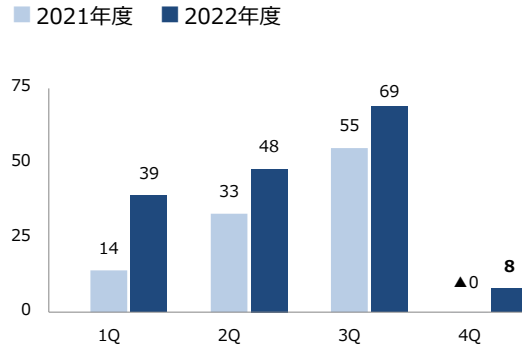
第4四半期（1-3月）

- 完成品販売 国内市場は回復傾向が継続したほか、北米・欧州市場も主要流通が好調を維持し、増収
- ムーブメント販売 機械式・アナログクォーツムーブメントともに回復が弱く、減収

売上高(億円)



営業利益(億円)



はじめに、時計事業です。

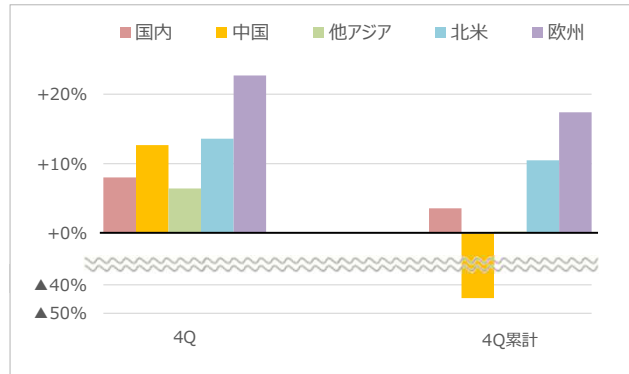
売上高は326億円、前年比15.7%増、営業利益は8億円と前年比9億円増となりました。

完成品販売は、国内市場が回復傾向となったほか、北米や欧州市場の販売も好調さを保ち、増収となりました。

ムーブメント販売は、機械式、アナログクォーツムーブメントともに回復が弱く、減収となっています。

前年同期比増減率（現地通貨ベース）

※ 北米のみCITIZENブランドとBULOVAブランドを合算した増減
その他の地域はCITIZENブランドのみの増減率



北米、欧州が好調を維持したほか、国内、中国も回復傾向

- 国内 物価高の影響により消費マインドが高まらない中、新製品等が堅調に推移し増収
- 中国 コロナ影響は和らぎ人流も戻りつつあるものの、本格的な消費回復には至らず
- 他アジア 回復状況はまだら模様ながら、インド、シンガポールなどが好調を維持
- 北米 百貨店・宝飾チェーンなどの主要流通の好調に加え、トラベル需要の高まりも寄与
- 欧州 英国、ドイツ、フランス等を中心に幅広いエリアで好調に推移し増収

地域別の売上高伸び率です。

左側のグラフが第4四半期、右側のグラフが通期累計期間の前年比売上増減を示しています。

左側の第4四半期について、ご説明します。

赤色の国内は、物価高の影響により消費マインドが高まらない中ではありましたが、新製品や高価格品が堅調に推移し増収となりました。

黄色の中国は、コロナ影響が和らぎ人流の回復を受け増収となったものの、本格的な消費回復には至りませんでした。

薄緑色のアジア地域は、国によってまだら模様であるものの、インド、シンガポールなどが好調を維持し、増収となりました。

水色の北米は、百貨店・宝飾チェーンなどの主要流通の好調に加え、トラベル需要の高まりも寄与し、増収となっています。

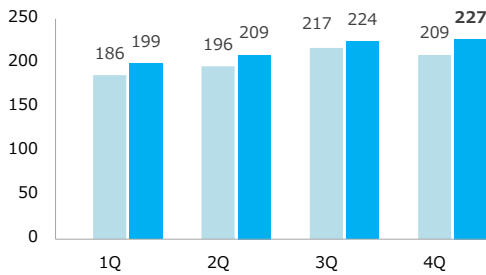
薄紫色の欧州も、英国、ドイツ、フランスなど幅広いエリアが引き続き好調に推移し、増収となりました。

第4四半期（1-3月）

- 国内販売 自動車向けが伸び悩んだものの建機や医療などが堅調に推移し、増収
- 海外販売 中国・アジア市場が減収となったものの、欧州および米州の好調が全体を牽引し、増収

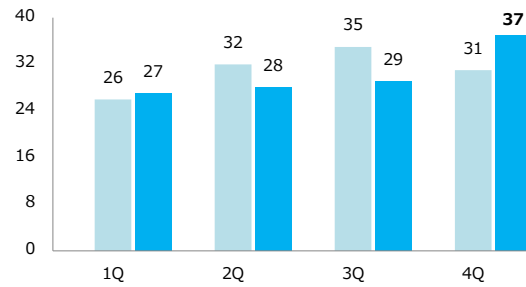
売上高(億円)

■ 2021年度 ■ 2022年度



営業利益(億円)

■ 2021年度 ■ 2022年度

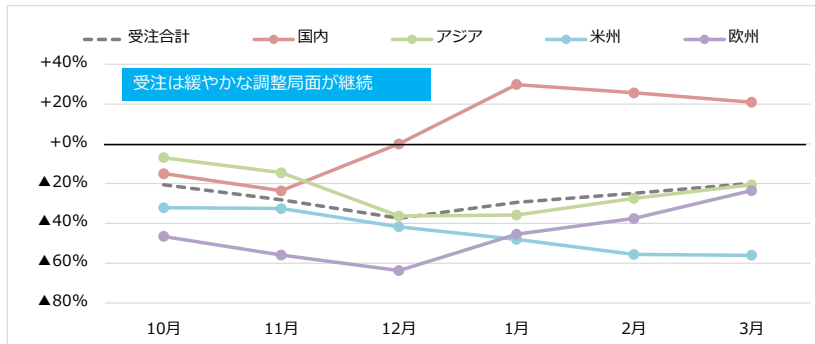


続いて、工作機械事業の概況をご説明します。

売上高は四半期として過去最高となった第3四半期を上回り227億円、前年比8.9%の増収となり、営業利益も37億円と増益となりました。

国内は、自動車向けが伸び悩みましたが増収となり、海外も、中国、アジア市場が減収となったものの、欧州及び米州の好調が全体を牽引し、増収となりました。営業利益率は16.5%でした。

前年同月比増減率 (3カ月移動平均受注台数)



4Q前年同期比増減率 (四半期受注台数)

- 受注合計 ▲20%
- 国内 +21% 自動車向けは低調も建機・医療などが好調に推移
- アジア ▲21% インドの自動車関連などは好調も、中国やその他地域が減少
- 米州 ▲56% 景気後退懸念の高まりを受け低水準の推移
- 欧州 ▲23% 設備投資意欲に一服感も医療関連等が堅調に推移

こちらは、地域別の受注状況です。
折れ線グラフは、受注台数の3カ月移動平均、前年同月比増減率を示しています。

下の表は第4四半期の前年同期比増減率ですが、受注台数は前年比20%減となりました。

地域別に見ますと、

国内は、自動車関連が減産の影響を受け伸び悩みましたが、建機や医療などが好調に推移し前年比21%増となりました。

アジアは、インドの自動車関連などが好調に推移した一方で、中国やその他地域の減少により、アジア地域全体では前年比21%減となりました。

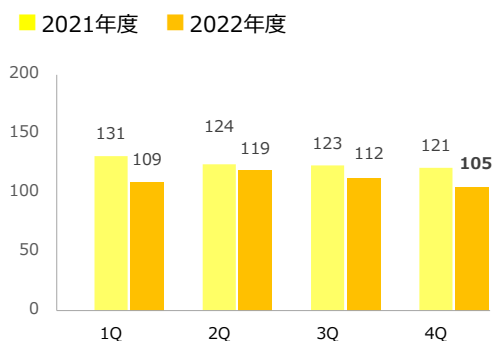
米州は、景気後退懸念の高まりを受け低水準となり、前年比56%減となりました。

欧州においても景気後退懸念の高まりから設備投資意欲に一服感が見られましたが、医療関連等が堅調に推移し前年比23%減とマイナス幅は縮小しています。

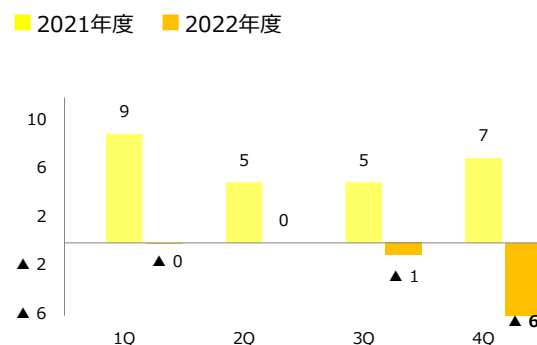
第4四半期（1-3月）

- 精密部品 自動車部品は自動車メーカーの生産回復に遅れが見られており伸び悩み
小型モーターは医療関連や半導体関連が堅調維持も部品調達難の影響により僅かに減収
- オプトデバイス 主に照明向けLEDの需要が低迷し、減収

売上高(億円)



営業利益(億円)



デバイス事業について説明します。

売上高は105億円、前年比13.3%減、6億円の営業損失となりました

自動車部品は、依然として自動車メーカーの生産の回復の遅れの影響で売り上げは伸び悩みました。

小型モーターは引き続き医療や半導体関連など幅広い分野からの受注を獲得していますが、部品調達難の影響があり、わずかに減収となりました。

オプトデバイスは、主に照明用LEDの需要減少を受け減収となり、デバイス事業全体でも減収減益となりました。

2023年度 連結業績予想

続いて、2023年度業績予想についてご説明します。

2023年度通期業績予想

- 時計事業・工作機械事業ともに好調さを保ち、増収増益

(単位：億円)	2022年度 実績		2023年度 予想		増減額		増減率	
	上期	通期	上期	通期	上期	通期	上期	通期
売上高	1,476	3,013	1,530	3,100	+53	+86	+3.6%	+2.9%
営業利益	123	237	126	250	+2	+12	+2.0%	+5.4%
営業利益率	8.4%	7.9%	8.2%	8.1%	-	-	-	-
経常利益	168	290	127	260	▲ 41	▲ 30	▲24.4%	▲10.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	126	218	97	200	▲ 29	▲ 18	▲23.3%	▲8.4%
為替レート	¥131/USD ¥138/EUR	¥135/USD ¥141/EUR	¥130/USD ¥140/EUR	¥130/USD ¥140/EUR				

2023年度配当金予想

- 年間配当金予想 40円 (中間 20円 / 期末 20円)
参考：2022年度 年間配当予定 34円 (中間 15円 / 期末 19円)

為替影響額 (1円円安の年間影響額)

	USD	EUR
売上高	+9億円	+4億円
営業利益	+2.5億円	+2億円

14

2023年度の通期業績予想の概要です。

売上高は3,100億円、前年比86億円増、
営業利益は250億円、前年比12億円増、
経常利益は260億円、当期純利益は200億円を予想しています。
なお、業績予想の前提為替レートは1USD=130円、1EUR=140円としています。

年間配当金の予想につきましては、中期経営計画の方針に沿って、前期比6円増の一株当たり40円とする予定です。

2023年度 連結業績予想 セグメント別業績推移

CITIZEN

(単位：億円 / %：営業利益率)

	2022年度 実績		2023年度 予想		増減額		増減率	
	上期	通期	上期	通期	上期	通期	上期	通期
売上高								
時計事業	733	1,500	750	1,550	+16	+49	+2.2%	+3.3%
工作機械事業	409	861	445	870	+35	+8	+8.8%	+1.0%
デバイス事業	229	447	233	475	+3	+27	+1.6%	+6.2%
電子機器他事業	104	204	102	205	▲2	+0	▲2.6%	+0.2%
合計	1,476	3,013	1,530	3,100	+53	+86	+3.6%	+2.9%
営業利益								
時計事業	88 (12.0%)	166 (11.1%)	87 (11.6%)	170 (11.0%)	▲1	+3	▲1.2%	+2.2%
工作機械事業	55 (13.5%)	122 (14.2%)	64 (14.4%)	125 (14.4%)	+8	+2	+15.8%	+2.4%
デバイス事業	0 (0.1%)	▲8 (▲1.8%)	2 (0.9%)	7 (1.5%)	+1	+15	+809.1%	-
電子機器他事業	7 (7.1%)	11 (5.6%)	3 (2.9%)	8 (3.9%)	▲4	▲3	▲59.7%	▲30.1%
消去又は全社	▲27	▲54	▲30	▲60	▲2	▲5	-	-
合計	123 (8.4%)	237 (7.9%)	126 (8.2%)	250 (8.1%)	+2	+12	+2.0%	+5.4%

15

セグメント別の通期業績予想です。

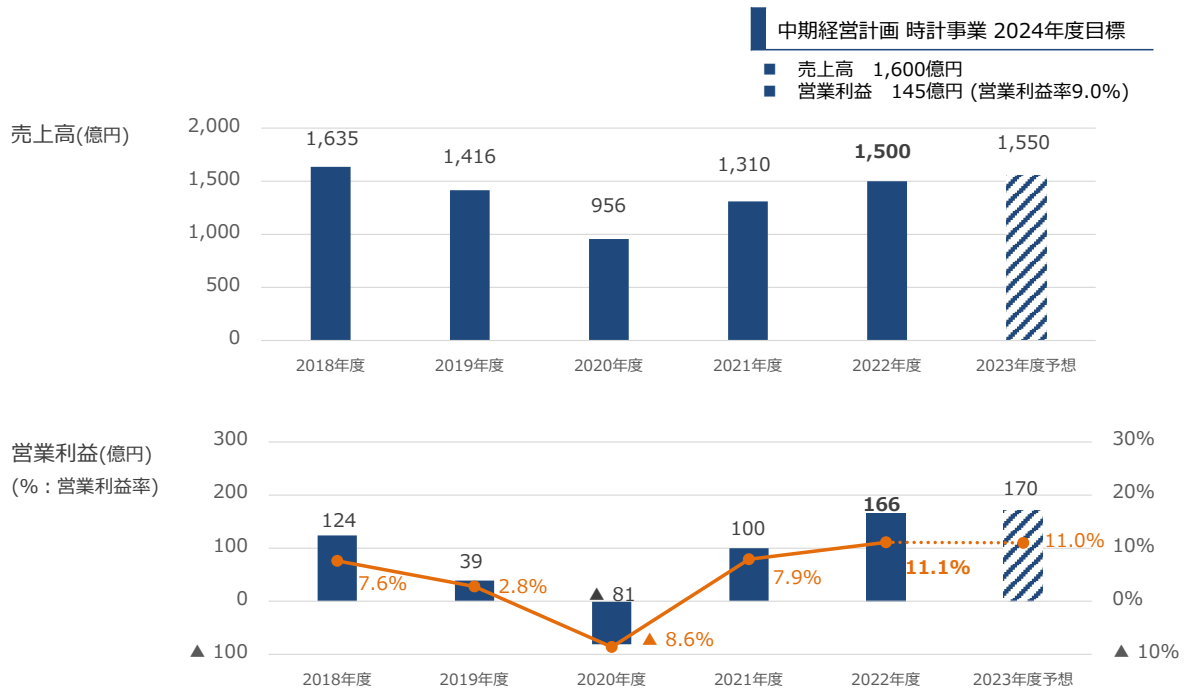
時計事業については、売上高は前年比49億円増の1,550億円、営業利益は170億円、

工作機械事業については、売上高は前年比8億円増の870億円、営業利益125億円と、主力の2事業の増収増益基調が続くと見込んでいます。

デバイス事業につきましては、市況の大きな回復は見込んでおりませんが、第2四半期以降、自動車部品の売り上げが回復する見通しもあり、売上高は前年比27億円増の475億円、また、電子機器他事業は、前年並みの205億円としています。

「中期経営計画 2024」 取り組み

最後に、「中期経営計画 2024」の取り組みについて、簡単に振り返りをさせていただきます。



時計事業に関しては、コロナ影響を受け大きく落ち込んだ2020年度から着実に回復を遂げ、2022年度はコロナ前の2018年度営業利益を大幅に上回る実績となりました。

為替の追い風もありましたが、営業利益率も11%になり、中期経営計画の目標指標を上回りました。

『CITIZEN PROMASTER』 成長ドライバーの中核として拡大継続

- プロフェッショナルスポーツウオッチブランドとしてグローバルに展開している『CITIZEN PROMASTER』
- 2022年8月発売のメカニカルダイバーモデルがグローバルで販売好調
- 海外市場で好評を博していたオルカをデザインモチーフにした「エコ・ドライブ ダイバー200m」を2023年5月に国内発売開始

 **PROMASTER**



グローバルで好調のメカニカルダイバーモデル

発売日：2022年8月19日
価 格：希望小売価格 96,800 円(税込) / 121,000 円(税込)
モデル：2モデル



オルカをデザインモチーフにしたダイバースウォッチ

発売日：2023年5月18日
価 格：希望小売価格 66,000円(税込)
モデル：3モデル

重点戦略の一つである「グローバルブランド戦略」についてご説明します。

グローバルブランドとして強化を進めている『CITIZEN PROMASTER』では、1977年発売のチャレンジダイバーのデザインを継承し、昨年8月に発売したメカニカルダイバーモデルが、全地域で販売好調となりました。

今年の5月には、欧州や米州などで好評を博しているオルカをデザインモチーフにした「エコ・ドライブダイバー200m」の販売を、国内でも開始します。

グローバル市場における成長ドライバーの中核ブランドとしてさらに取り組みを強化しています。

『CITIZEN L』 グローバルレディスブランドの中核として市場拡大

- グローバルレディスブランドの中核として育成を推進しており、アジア地域から欧米へも市場を拡大
- 2023年4月に発売開始したスズランをデザインテーマにしたモデルはグローバルで販売好調

CITIZEN *L*



発売日：2023年4月13日
価 格：希望小売価格 48,400～53,900円(税込)
モデル：2モデル

19

続いて、『CITIZEN L』です。

『CITIZEN L』は、グローバルレディスブランドの中核にすべく育成を進めており、これまでメインとしてきたアジア地域だけでなく、欧米市場への展開を図っていきます。

今期、2023年度より、グローバル展開を本格的に始動しますが、4月に販売開始したスズランをデザインテーマにした宣伝モデルは、欧米市場でも受け入れられており、好調なスタートを切ることができました。

プレミアムブランド及び機械式時計の取り組み強化

- 『The CITIZEN』、『CAMPANOLA』を中心にプレミアムブランドが好調継続
(国内におけるプレミアムブランドの2022年度販売金額合計は前年比+20%超)
※ プレミアムブランド：『The CITIZEN』、『CAMPANOLA』、『Eco-Drive One』
- 機械式時計ブランド『CITIZEN Series 8』は海外展開を拡大

The
CITIZEN



高精度機械式ムーブメントCaliber 0200を搭載した限定モデル

発売日：2022年12月8日
価格：希望小売価格 968,000円(税込)
限定数量：世界限定90本

CAMPANOLA



傘下のラ・ジュール・ベレ社製のトゥールビヨンを搭載したモデル「天」と「地」

発売日：2022年6月1日
価格：希望小売価格 9,350,000円(税込)
限定数量：各5本

Series8



ブランド再始動1周年を記念したメカニカル限定モデル

発売日：2022年9月22日
価格：希望小売価格 275,000円(税込)
限定数量：700本

20

続いて、プレミアムブランド及び機械式時計戦略です。

『The CITIZEN』、『CAMPANOLA』を中心としたプレミアムブランドの売上高は、国内において、前年比2割以上の売上増となりました。

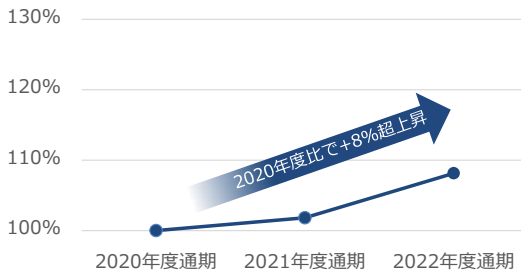
また、機械式時計ブランド『CITIZEN Series 8』は海外展開を強化し、販売エリアを拡大した欧州市場での販売を伸ばすことができました。

引き続きラインナップの拡充を進め、更なる拡販を図っていきます。

ブランドプレゼンス強化による販売単価上昇

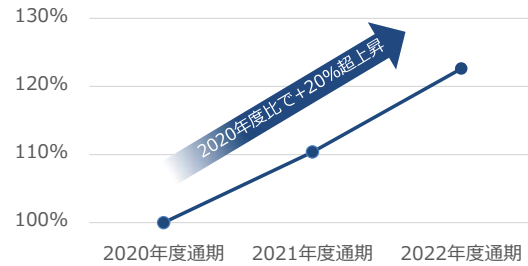
- 国内は『CITIZEN ATTESA』やプレミアムブランドの好調が寄与し、販売単価は上昇基調
- 北米はCITIZENブランド、BULOVAブランドともに高付加価値製品の投入や値上げ実施等により販売単価が上昇

国内販売単価増減率



※ 2020年度を基準とした国内のCITIZENブランドの販売単価増減率

北米販売単価増減率(現地通貨ベース)

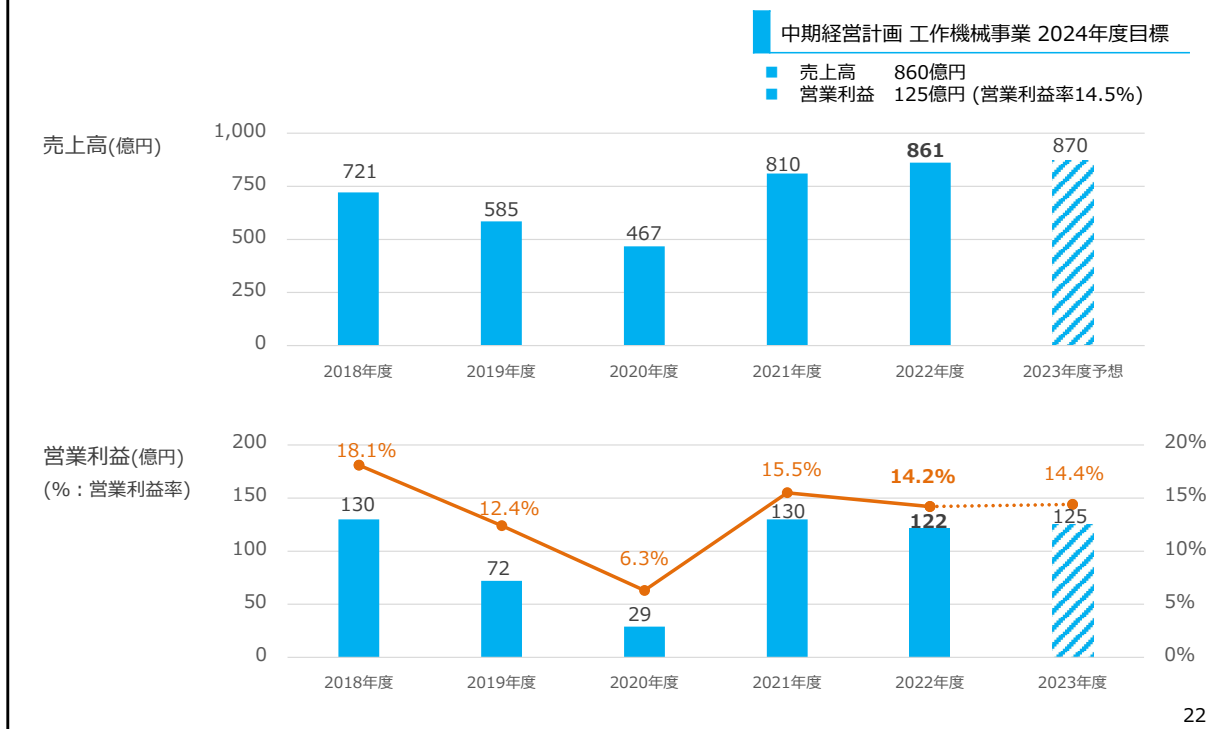


※ 2020年度を基準とした北米のCITIZEN、BULOVAブランドの販売単価増減率(現地通貨ベース)

主要2地域の販売単価の推移を説明します。

国内市場では、『CITIZEN ATTESA』やプレミアムブランドの好調が寄与し、販売単価は2020年度比で8%超の上昇、
北米市場では、CITIZENブランドとBULOVAブランドの両ブランドにおいて、より付加価値の高い製品の投入や値上げの実施により、2020年度比で20%を超える単価上昇となっています。

今後もより多くのお客さまから共感され、指名買いされるブランドを目指して訴求を行っていきます。



工作機械事業の業績推移です。

売上高は、中期経営計画の目標指標を初年度で達成することができました。
営業利益は、コスト増もあり、僅かに届きませんでした。2023年度で中期経営計画目標達成に向けて取り組んでいきます。

軽井沢本社の精密加工工場が完成

- 長期的な目標として売上高1,000億円を見据え、生産能力増強を実施
- 2023年5月に軽井沢本社の精密加工工場が完成し、基幹部品の生産能力6割増強(2021年度比)
- 中国、タイ、本社工場の設備投資が完了し、生産能力は4割増(2021年度比)となる見込み



中国工場

- 生産能力倍増(月産最大350台体制)
- 延床面積：34,200 m²
- 稼働開始：2021年2月



タイ工場

- 生産能力5割増強(月産最大350台体制)
- 増床延床面積：4,475 m²
(増床後の総延床面積：27,488 m²)
- 稼働開始：2022年11月



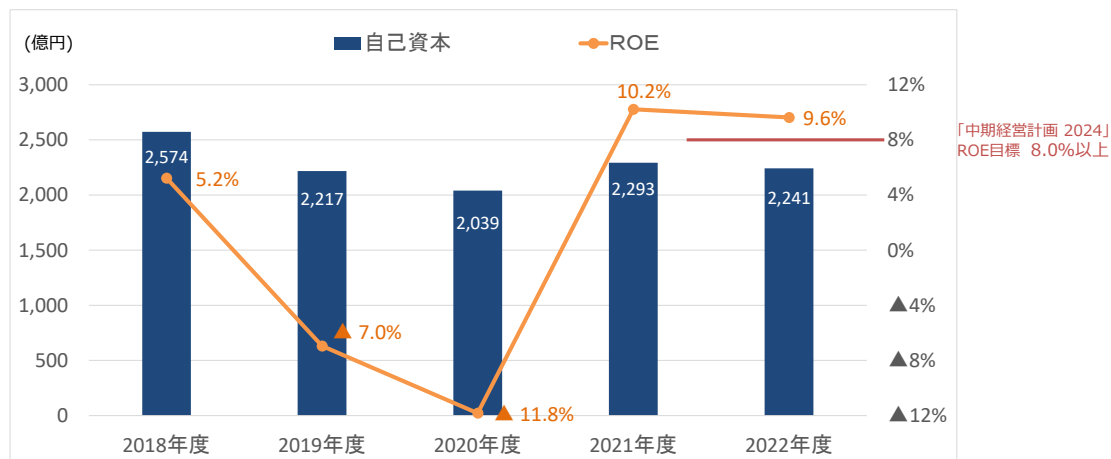
軽井沢本社 精密加工工場

- 基幹部品の生産能力6割増強(2021年度比)
- 精密加工工場延床面積：4,459 m²
- 稼働開始：2023年5月

工作機械事業では、長期的な目標として売上高1,000億円を見据えつつ、これまで中国、タイとそれぞれ生産能力の増強を図ってきましたが、今月、軽井沢本社の精密加工工場の増設が完了し、まもなく稼働を開始します。これらの設備投資により、生産能力は2021年度比4割増となります。

「中期経営計画 2024」 ROE目標 8.0%以上

- 収益性の向上および自己資本の圧縮により「中期経営計画 2024」 ROE目標8.0%以上を達成
- 今後も継続的なROE8.0%以上の達成を目指す

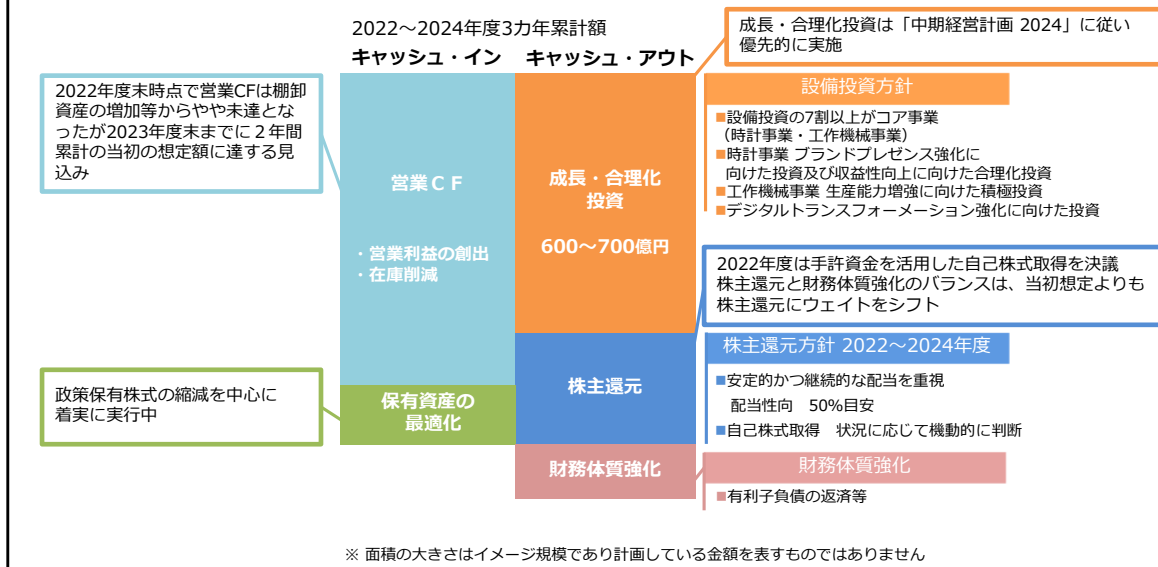


※ ROE = "親会社株主に帰属する当期純利益" / "自己資本 (期首残高と期末残高の平均値) "

ROEの推移です。

中期経営計画では、ROE8.0%以上を目標としていますが、2022年度は収益性の向上や自己資本の圧縮により、9.6%と目標指標を上回ることができました。今後も継続的に「ROE8.0%以上」の達成を目指していきます。

- 成長・合理化投資は「中期経営計画 2024」に従い優先的に実施
- 2022年度は手許資金を活用した上限金額400億円の自己株式取得を決議
- 今後も資本コストを意識し、適切にバランスシートをコントロール



最後に、キャッシュアロケーションについてご説明します。

こちらは、中期経営計画の資料の再掲となりますが、吹き出しの中に、現状を簡単に記載しています。

キャッシュインの方から説明しますと、

「営業CF」は、棚卸資産の増加等からやや未達となりましたが、2023年度末までに2年間累計の当初想定額に達する見込みです。

「保有資産の最適化」については、政策保有株式の縮減を中心に着実に実行中です。

「成長・合理化投資」は、中期経営計画に沿って、予定通り、優先的に資金を配分していきます。

「株主還元と財務体質強化」については、リスクバッファーとして保有していた手元資金を活用した大規模な自己株式取得を実施中ですので、

有利子負債返済とのバランスにおいては、株主還元にウェイトをシフトしました。

今後も、資本コストを意識した適切なバランスシートのコントロールも行っていきます。

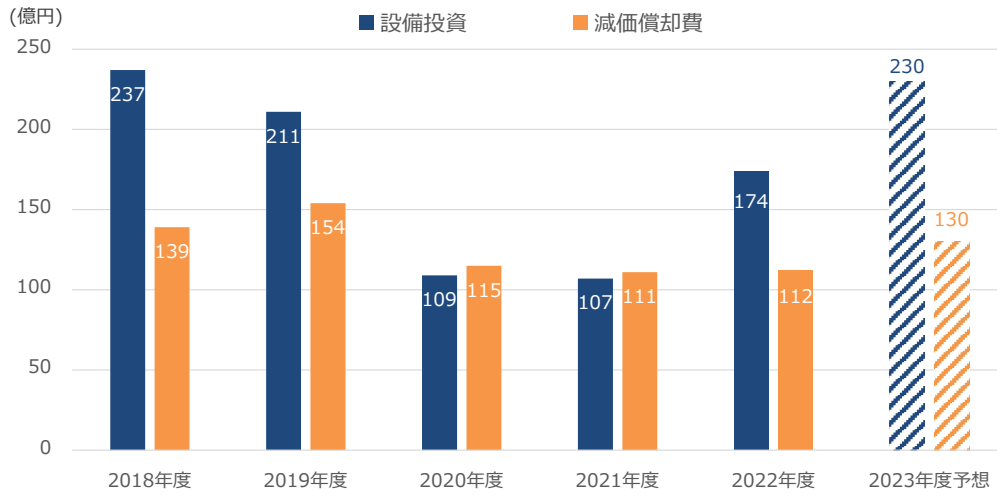


CITIZEN

本プレゼン資料における将来予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により大幅に異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。
なお、億円未満は切り捨てになっています。

以上で私からの説明を終わります。
ご清聴ありがとうございました。

設備投資・減価償却費



- 「中期経営計画 2024」に基づき時計事業の合理化投資および工作機械事業の成長投資を加速
- 投資配分イメージ 時計事業+工作機械事業 7割以上

中期経営計画 株主還元方針 2022~2024年度

- 安定的かつ継続的な配当を重視
- 配当性向 50%目安
- 自己株式取得 状況に応じて機動的に判断

2023年度 配当予想

- 1株当たり配当金 年間40円 (中間 20円 / 期末 20円)

